



L-Acoustics K シリーズは、リヨンの新しい LDLC Arena を活気づける

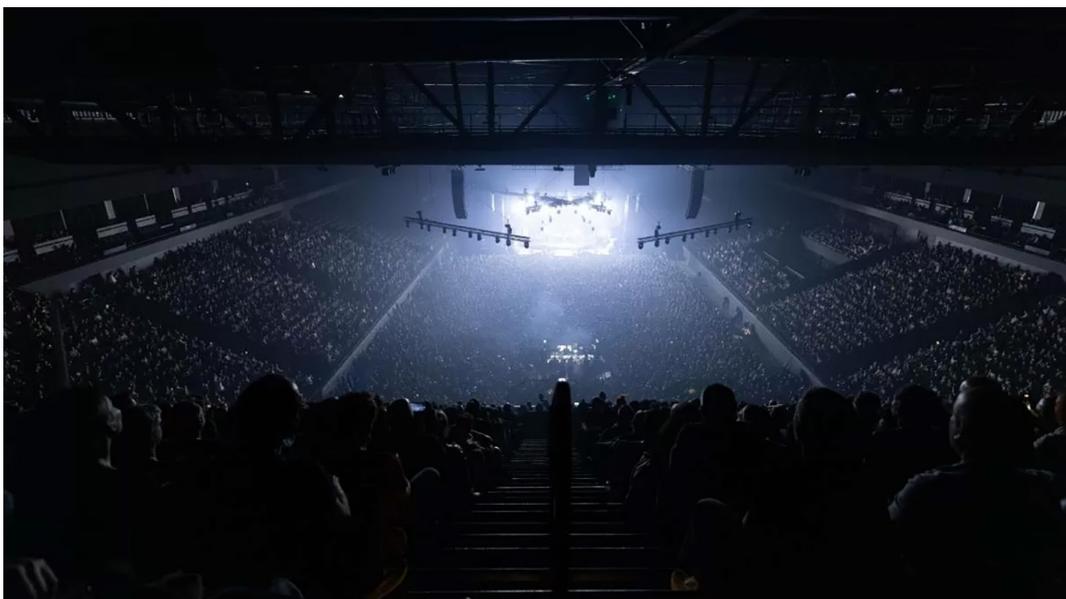


LDLC Arena と L-Acoustics A シリーズと K シリーズシステムの様子 (© Lotfi Dakhli)

2024年2月

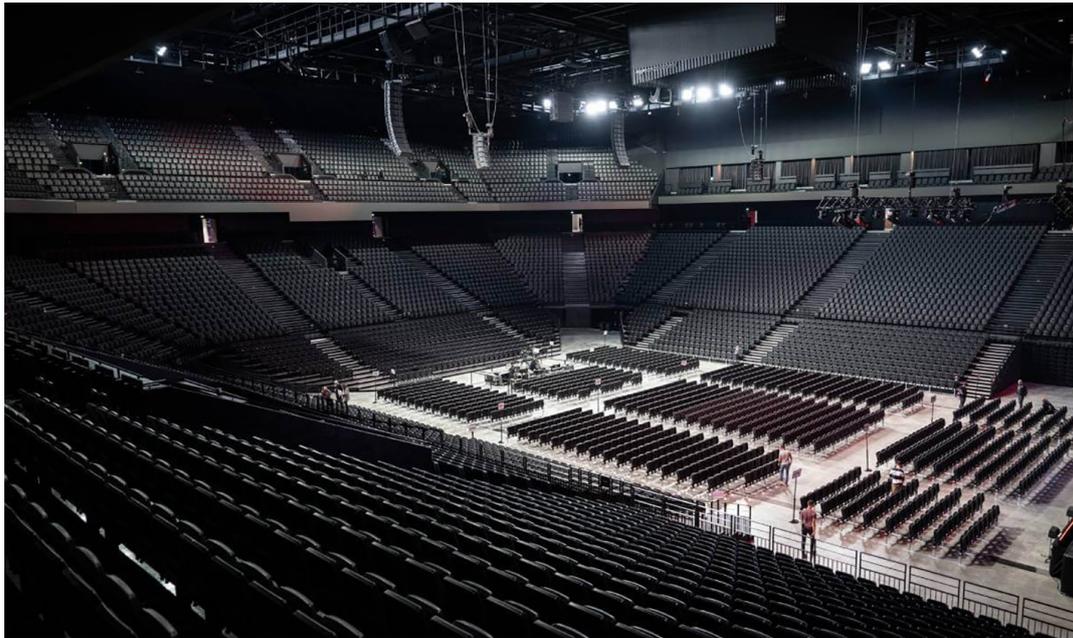
リヨンの新しい LDLC Arena は 16,000 人の収容力を誇り、パリ以外でフランス最大規模の屋内アリーナ会場になっています。歴史、文化、イノベーションですでに名高いリヨンに、Populous 社が設計したこの会場は、感動的なスポーツイベントや大規模なコンサートを開催できる多目的なスペースを作りたかったという自治体の目的が実現されています。LDLC Arena はリヨン=ヴァイール

バンヌ地域のプロバスケットボールチーム「ASVEL Basket」の新たな本拠地となり、大規模なトーナメント、展示会、コンサートにも対応します。アリーナは、2023年11月に、リヨン出身のタレントでコメディアン・フローランス・フォレスティ (Florence Foresti) のパフォーマンスでオープンし、アーケティック・モンキーズなどさまざまなコンサートも開催されています。



フランスのバンド「Shaka Ponk」は LDLC Arena で演奏しました (© Simon Bianchetti)





フローランス・フォレストィのパフォーマンス時の座席エリアの構造 (© DamienLG)

LDLCチームは、多様なイベント・プログラムを提供するというミッションを果たすため、マルセイユに本社を置く設備会社 Snef に、あらゆるコンテンツに対応できるプロフェッショナルなコンサート・グレードの音響システムの設計・設置を依頼しました。Snef は、マルセイユの多目的アリーナスタッド・ヴェロドロームにおけるプロフェッショナル音響システムの導入など、同様のプロジェクトを成功させてきた実績があります。Snef は、LDLC Arena のあらゆるスポーツやエンターテインメントのプログラムに対応できる柔軟で均一なカバレッジを達成できるよう努めました。しかも、イベントの種類によってスペースの収容人数と形状が変わるため、サウンドシステムはコンパクトで、異なるレイアウトにも適応できなければなりませんでした。

「このプロジェクトはリヨンにとって冒険のようなものでした。」と Snef のナショナル・テクニカル・ディレクターであるロドルフ・ロランジェ (Rodolphe Roellinger) 氏は語ります。「これまで、汎用性と音質の高いサウンドシステムを必要とする豊富なプログラムに対応できるスペースがなかったのです。」

Snef のエンジニアリングチームは、Soundvision を用いて会場をマッピングした結果、A シリーズと K シリーズの組み合わせによる柔軟なサウンドシステムを提案しました。それらは、試合で観客の視界を妨げることなく広いカバレッジに加えて、規模を問わない優れた適応力のために選ばれました。

Snef は、会場のコの字型をした場所の上部に、コンサート時のシステムとして 12 台の K3 による 2 つのハングと 3 台の KS28 による 2 つのセンタークラスターで構成されたシステムを設計しました。左右の長い辺に 6 台の A15i による 3 つのハングが設置されました。さらに、2 台の A15i による 2 つのハングがフロントとリアに設置され、小規模なイベントシステムやコンサートのディレイとして機能します。6 台の LA7.16i と 2 台の LA12X アンプリファイド・コントローラーがシステム全体を駆動します。

「このユニークな会場に L-Acoustics の卓越したサウンドシステムを提供できたことを誇りに思います。」とロランジェ氏は語ります。「この音の正確性と迫力が、イベントごとに印象に残る体験を作っています。お客様から驚くべき音質と明瞭なサウンドを称賛する声が聞かれ、高く評価されています。L-Acousticsのおかげで、リヨンの舞台においてオーディオ体験の新たな基準を設けることができました。」

